

コミケビギナーのための 超・速・解 アドバイス



50周年という記念すべき節目を迎えているコミケット。しばらくは東ホールの改装工事が続きますが、それでも会場は参加者の情熱に溢れています。そして冬コミは初参加が増える回でもあります。会場で困っている初心者さんを見かけたら、ベテランさんはぜひ助けてあげてください。そうして、コミケットの歴史は続いていくのです



■■寒さも暑さも乗り越えて■■

コミケットに限らず、今や真夏の熱中症対策は国を挙げての一大運動になっているため、真夏に活動する以上何らかの対策が必須ということはほぼ常識だ。しかしこれが冬となると、寒さの感じ方は個人差が大きく、また熱中症のように逼迫した身体ダメージが発生しづらい、普段は冬でも屋内や交通機関内などは空調が効いていてさほど寒さを感じずにむしろ過重な防寒装備は暑くて困ることもあるなどのさまざまな理由から、つい寒さ対策を軽視しがちになってしまう。

しかし、ただでさえ慌ただしい年末に開催される冬コミ、普段の生活とは大きく異なる環境やスケジュールで丸1日、参加スタイルによっては2日を過ごすのであれば、寒い・暑いといった環境への対策を行うと行わないのでは体力の消耗が大きく違ってくる。

冬コミの寒さ対策とは、体力を維持するための方策の1つであると言える。的確な服装や装備で臨めばその分だけ疲労を軽減できて余裕をもった参加が可能となるのだ。

すべてが慌ただしい年末の、さらに慌ただしいコミケットにおいて、体力的な余裕が持てることの意義は決して小さくはない。人は余裕があればこそ、周囲に対しても優しくなれるのだ。

■何を着るべきか、着ぬべきか■

先にも述べたように、冬コミに参加する際の服装は、夏コミに比べれば考え方にだいぶ余裕がある。なんなら普段日常生活でしているままの服装で参加したとしても、夏のように生命の危機に瀕するようなケースはごく稀だ（稀なだけでその危険が皆無なわけではないことには注意してほしい）。これは、冬コミはより快適に、よりラクに参加できる服装を検討する余地があることを意味している。どうせならできるだけ寒さや暑さに悩まされないで参加したいものだ。

●防寒軽んずべからず

かつて長時間（始発で来場した場合最大5時間強）の入場待期が当たり前の、厳重な防寒対策が必須だった。しかし現在のコミケットでは、チケットごとの入場時間に合わせて会場に到着すれば、それほど長時間の屋外待期はせずにすむようになったため、一般参加者の寒さ対策はかなり楽になっている。

逆に入場方式の変遷とはあまり関係がなく会場内で長時間寒さに耐えなくてはならないのがサークル参加者だ。ホール内はある程度は空調が効いている（特に最新の7・8ホールは空調の効きが良く、夏冬とも非常に快適だ）が、コミケット開催中は換気のためホールとトラックヤードを隔てるシャッターが開くため、冷たい風が入ってくる。特に冷気は床近くにとどまるので、立って移動している一般参加者よりも、イスに座っているサークル参加者のほうが寒さの影響を受けやすい。自分のサークルの場所がシャッター寄りの配置なら、しっかりと防寒していった方が良好だろう。

また、一般参加者も入場までよりも会場内で屋外で地面に座ったり立ったまま行列待期する時間や、西～東地区への移動で屋外に出る際の方が防寒が必要な場合もあるので、入場待期時間が短くなったことがそのまま防寒対策が不要という意味になったわけではない。参加する以上は、全員それなりの防寒装備は必須なのだ。

